

指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ）平成29年度評価報告書  
 （基本評価シート）（案）及び平成30年度実施計画書（案）について

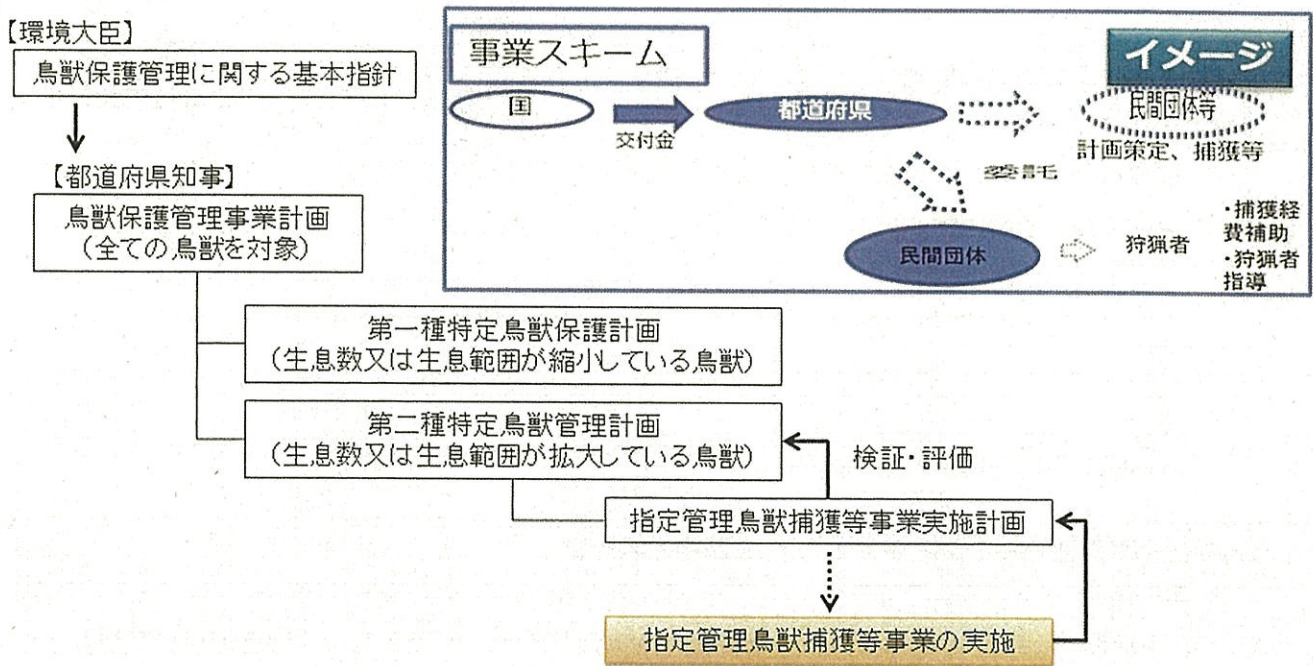
1 指定管理鳥獣捕獲等事業について

平成26年通常国会で、鳥獣保護法から鳥獣保護管理法への改正により創設された制度で、集中的かつ広域的に管理を図る必要があるとして、環境大臣が定めた鳥獣（指定管理鳥獣）について、都道府県又は国が捕獲等をする事業（指定管理鳥獣捕獲等事業）を実施することができることとなった。

現在、指定管理鳥獣はニホンジカ及びイノシシが指定されている。

指定管理鳥獣捕獲等事業を実施する都道府県は、捕獲等事業の内容を具体的にまとめた指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画を策定し、この計画に基づいて捕獲等事業を行う。

【事業の概要】



【捕獲の枠組み】

分類	狩猟	有害捕獲 (市町村)	個体数調整	
			市町村	指定管理鳥獣捕獲等事業 (県)
目的	問わない	農林業被害等の防止	生息数又は生息範囲の抑制	
実施時期	狩猟期間(11/15~2/15) 宮城県ではニホンジカは3/15まで、イノシシは3/31まで期間を延長	許可された期間(通年可能)	許可された期間 (通年可能)	事業実施期間
実施区域	鳥獣保護区や休猟区等の狩猟禁止の区域以外	宮城県内の許可された区域	宮城県内の許可された区域	事業実施区域
捕獲実施者	狩猟者	鳥獣被害対策実施隊(構成員は猟友会が主) 市町村や被害者から委託を受けた者、被害者	市町村から委託を受けた者	認定鳥獣捕獲等事業者等 (猟友会など)
必要な手続き	狩猟免許の取得 狩猟者登録	捕獲の許可の取得	捕獲の許可の取得	事業の実施者及び受託者については、捕獲の許可を受けた者と見なされる
交付金等名 (財源)	狩猟捕獲促進事業補助金(一財(震災復興特別交付税))	鳥獣被害防止総合対策交付金(国費)等	指定管理鳥獣捕獲等事業交付金 (国費・みやぎ環境税)	

## 実施計画に係る関係法令（抜粋）

### 【鳥獣保護管理法（抜粋）】

#### （指定管理鳥獣捕獲等事業）

第十四条の二 都道府県知事は、第二種特定鳥獣管理計画において第七条の二第二項第五号に掲げる事項を定めた場合において、当該第二種特定鳥獣管理計画に基づき指定管理鳥獣捕獲等事業を実施しようとするときは、指定管理鳥獣の種類ごとに、指定管理鳥獣捕獲等事業に関する実施計画（以下この条において「実施計画」という。）を定めるものとする。

（中略）

- 4 第四条第五項及び第七条第五項から第七項までの規定は、実施計画について準用する。  
この場合において、同条第六項中「第二項第三号に規定する区域」とあるのは、「第十四条の二第二項第三号に規定する実施区域」と読み替えるものとする。

#### （第一種特定鳥獣保護計画）

### 第七条

- 5 都道府県知事は、第一種特定鳥獣保護計画を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、利害関係人の意見を聴かなければならない。

## 評価報告に係る関係法令（抜粋）

### 【指定管理鳥獣捕獲等事業交付金事業実施要綱（抜粋）】

#### 7 事業の評価

- (1) 都道府県は、指定管理鳥獣捕獲等事業交付金事業が終了したときには、指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画の目標の達成度や効果、妥当性等について評価、検証を行い、評価の妥当性について学識経験者等第三者の意見を聴いた上で指定管理鳥獣捕獲等事業の評価報告書を作成すること。

## 基本評価シート（ニホンジカ）

### 1. 事業の基本情報

事業名（※1）	宮城県ニホンジカ・イノシシ生息状況等調査業務		
	宮城県指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ）捕獲業務		
都道府県名	宮城県	担当者部・係名	自然保護課 野生生物保護班
担当者名	水田	担当者連絡先	022-211-2673
捕獲実施事業者	一般社団法人宮城県猟友会 { (認定を受けている)	予算額（※2）	17,600,000円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	5,907,492円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

### ○平成29年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

#### （指定管理鳥獣捕獲等事業の実績）

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
150頭	29頭	19.3%

#### （生息等の状況及びその他の捕獲実績）

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
7,906頭（平成27年度末）	捕獲数1,920頭以上/年	なし
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
554頭	2,264頭	0頭

### ○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

平成23年度から牡鹿半島地域を対象として県による個体数調整を実施し、平成25年度から平成26年度までは気仙沼地域を対象に加えて実施。

2. 平成 29 年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>記述欄： ニホンジカによる生活環境、農林業又は生態系に対する被害の動向、本県内におけるニホンジカの捕獲数及び生息数の動向、生息数と被害の関連性等の観点から、第二種特定鳥獣管理計画の目標を達成するため必要に応じて、既存の個体群管理のための事業に加え、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施する。</p> <p>※特定計画の中での指定管理鳥獣捕獲等事業の位置づけも記載する。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。  <input checked="" type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。  <input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。            ※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<p><input type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。</p>
実施期間	<p>平成 29 年 12 月 11 日から平成 30 年 3 月 31 日まで            (うち捕獲実施期間、平成 30 年 1 月 20 日から平成 30 年 3 月 11 日まで)</p>
実施区域	<p>牡鹿半島及び周辺部区域： ニホンジカによる農林業被害が増加しているが、十分な捕獲等が行われていない。            気仙沼地域： 岩手県境(五葉山地域)から南下し、生息数が増加しているが、十分な捕獲等が行われていない。</p> <p>※1：実施区域の特徴も記入            ※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	<p>事業区域の市町村及び所轄の警察署に対し、業務の協力依頼を行った。</p>
事業の捕獲目標	<p>(19.3%達成)            = (29 実績値) / (150 目標値)</p>
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <p><input type="checkbox"/> 誘引狙撃                      <input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り                      <input type="checkbox"/> 忍び猟  <input type="checkbox"/> モバイルカリング              <input type="checkbox"/> 夜間銃猟  <input type="checkbox"/> その他 (                              )</p> <p>【わな猟】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> くくりわな                      <input type="checkbox"/> 箱わな                      <input type="checkbox"/> 囲いわな  <input type="checkbox"/> その他 (                              )</p> <p>※1：各種猟法の定義は9ページ参照、※2：複数チェック可</p>
捕獲個体の確認方法	<p><input type="checkbox"/> 個体の身体の一部(耳、尾など)  <input checked="" type="checkbox"/> 写真(詳細を記載：通しナンバーを捕獲個体の右側胴体にペンキ等で記入するか、又はホワイトボード・黒板等に記入し、捕獲個体とともに写真を撮ったもの。)  <input type="checkbox"/> その他 (                              )</p> <p>※複数チェック可。</p>
捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。  <input type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。  <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。</p> <p>※複数チェック可</p>
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <p><input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。  <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。</p> <p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。            (内容： くくりわなの輪の直径を 12 センチメートル以内とし、かつワイヤーの直径が 4 ミリメートル以上、締め付け防止金具及びよ</p>

	りもどしを設置) <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。 鳥類の鉛中毒等について <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。 鉛製銃弾について <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	安全管理規程を有しており、安全管理の体制は申し分ない。
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 捕獲従事者数： 42人 (内訳) 正規雇用者： 人、期間雇用者： 人 日当制： 人

### 3. 平成 29 年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

#### ○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標達成】	評価： 目標達成率 19.3%と目標を大きく下回った。前年度の有害捕獲や狩猟捕獲などを合わせた捕獲実績を参考に設定したが、目標としては過大であった。 改善点： 実際に捕獲を実施した区域が比較的低密度地域であったことが目標達成できなかった要因である。実際の捕獲実施区域や実施期間に合わせた達成可能な目標捕獲数を設定する必要がある。
【実施期間】	評価： 約 2 か月間の実施期間を設けたが目標達成にはいたらなかった。 改善点： 事業開始時期が 1 月と狩猟期間と比べて遅いため、開始時期を早めに設定し実施期間を長く設定することによりさらに捕獲実績をあげることができる。有害捕獲など他の事業との重複を避けつつ最大の成果を得られる実施期間を設定する。
【実施区域】	評価： 実施計画において捕獲実施区域はシカの生息域全体をカバーする範囲で設定したが、実際の捕獲作業は比較的低密度地域でのみ実施したため、目標捕獲数を達成することができなかった。 改善点： 効率的な捕獲を実施するためにはある程度生息密度の高い場所での実施が必要である。そういった場所で実施するためには捕獲実施前に事業者や対象地域の行政担と調整し、計画的に実施区域を選定する必要がある。また、実施区域を選定する際は各地域の捕獲実績などのデータを元に検討する必要がある。
【捕獲手法】	評価： くくりわな及び銃猟による捕獲を実施したが、昨年度事業の捕

	<p>獲効率が巻き狩り 0.2 頭/人日、くくりわな：0.015 頭/基日に対し、本事業における捕獲効率は巻き狩り 0.056 頭/人日、くくりわな 0.0013 頭/基日と極端に低く、目標捕獲数を達成することができなかった。</p> <p>改善点： 捕獲効率の低下は捕獲実施場所が比較的低密度地域であることが主な要因であるが、メッシュ別の実績では猟法によって捕獲効率に大きな差がある区域もあることから、場所によって最適な猟法を選択することで捕獲効率の向上を図る。</p>
--	--

## 2. 体制整備に関する評価及び改善点

【実施体制】	評価： 十分な捕獲従事者を配置することができた。
	改善点： 引き続き適切な実施体制が整えられるよう指導する。
【個体処分】	評価： 適切に埋設等実施された。
	改善点： 引き続き適切な個体処分に努めるよう指導する。
【環境配慮】	評価： 特に外部からの問い合わせは無かった。
	改善点： 引き続き環境配慮に努めた事業実施を指導する。
【安全管理】	評価： 事故無く捕獲事業が実施できた。
	改善点： 引き続き無事故が続くように、事業者へ安全への配慮に努めるよう指導する。

## 3. その他の事項に関する評価及び改善点

特になし

## 4. 全体評価

目標達成率は前年度事業 100%（目標 150 頭、実績 150 頭）に対し本事業は 19.3%と大きく下回った。これは比較的低密度な区域で捕獲が実施されたことが主な要因と考えられる。今後は事業者および各地域の行政と連携して計画的に捕獲実施場所を選定し効率的な捕獲に努め、目標捕獲数の達成を目指す。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

### ○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

本事業の実施により、第二種特定鳥獣管理計画の捕獲頭数の目標に上積みすることができた。また、実施場所はニホンジカの侵出抑制地域であり、生息域拡大防止に寄与したと考えられる。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ( )	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数* <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

\*のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）*についてチェック
捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	

\*概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果 (必須となる記録項目)

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数<sup>※1</sup>: 322 人日

事前調査人日数概数<sup>※2</sup>: 不明 人日

出猟 (捕獲作業) 人日数: 322 人日

項目	平成29年 (事業年度の値)	平成28年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (銃猟) のべ人日数 (1日に複数のメッシュに出役 した場合はそれぞれ1日 とする)	373人日	460人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数<sup>※1</sup>: 194 人日

事前調査人日数概数<sup>※2</sup>: 不明 人日

出猟 (捕獲作業) 人日数: 194 人日

項目	平成29年 (事業年度の値)	平成28年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (わな猟) わなの稼働総数 (わな基×日数)	6,044基日	3,799基日	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。



イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	平成29年 (事業年度の値)	平成28年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	21頭	93頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
②目撃数	84頭	710頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	38.1% (8頭/21頭)	39.8% (37頭/93頭)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	14.3% (3頭/21頭)	6.5% (6頭/93頭)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

平成29年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別(銃器)の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り	21頭	373人日	0.056頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少	0.225頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1: 作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2: CPUE=捕獲数/のべ人日数

※3: SPUE=目撃数/のべ人日数

※CPUE、SPUEは前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	平成29年 (事業年度の値)	平成28年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	8頭	57頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	87.5% (7頭/8頭)	59.6% (34頭/57頭)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	12.5% (1頭/8頭)	12.3% (7頭/57頭)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
-----------------------	------------------	-------------------	--

平成 29 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数 <sup>※1</sup>	CPUE <sup>※2</sup>
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	8頭	6,044基日	0.0013頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 囲いわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 不明 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 0 個体

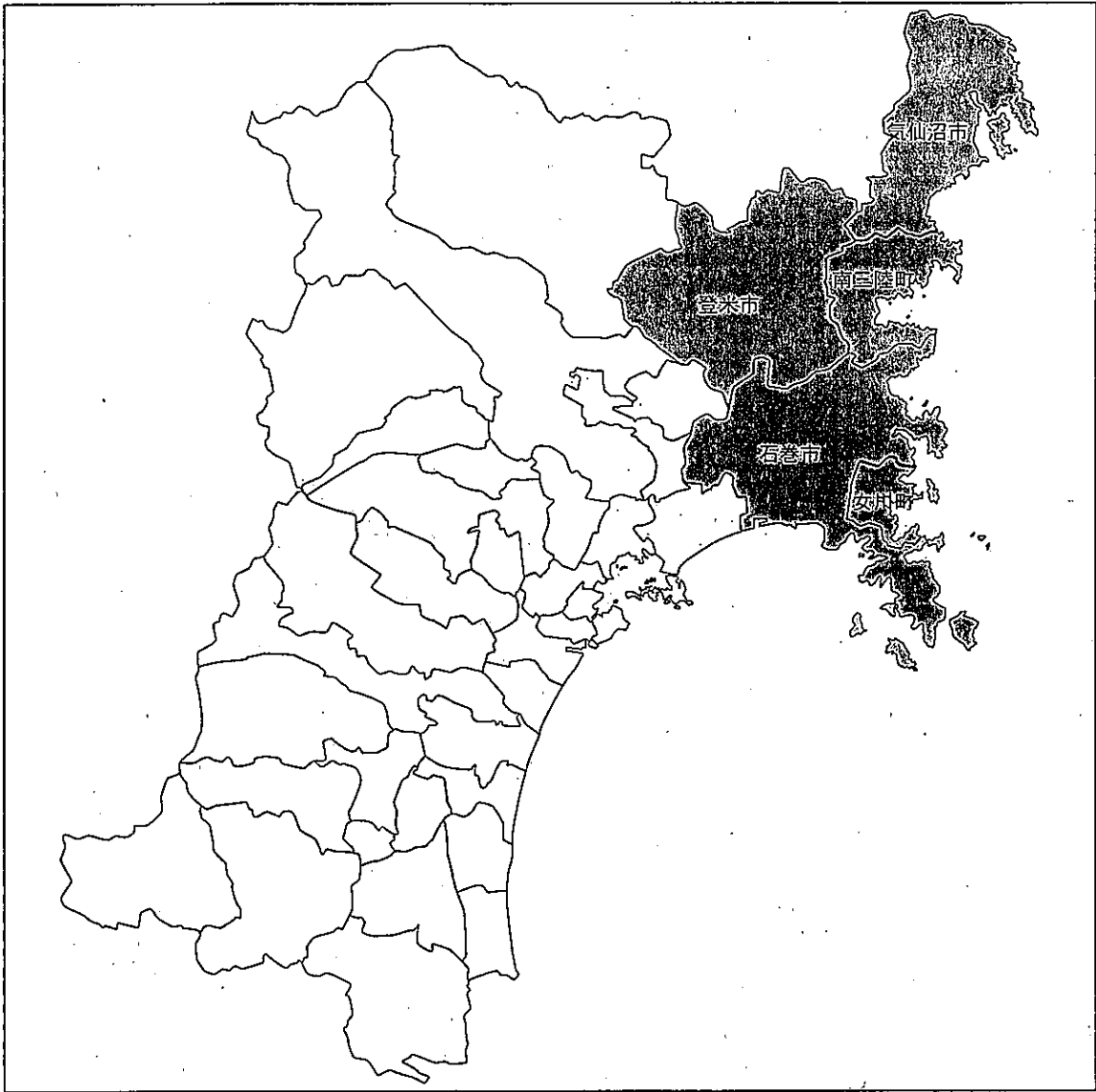
適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

通しナンバーを捕獲個体の右側胴体にペンキ等で記入するか、又はホワイトボード・黒板等に記入し、捕獲個体とともに写真を撮ったもの。

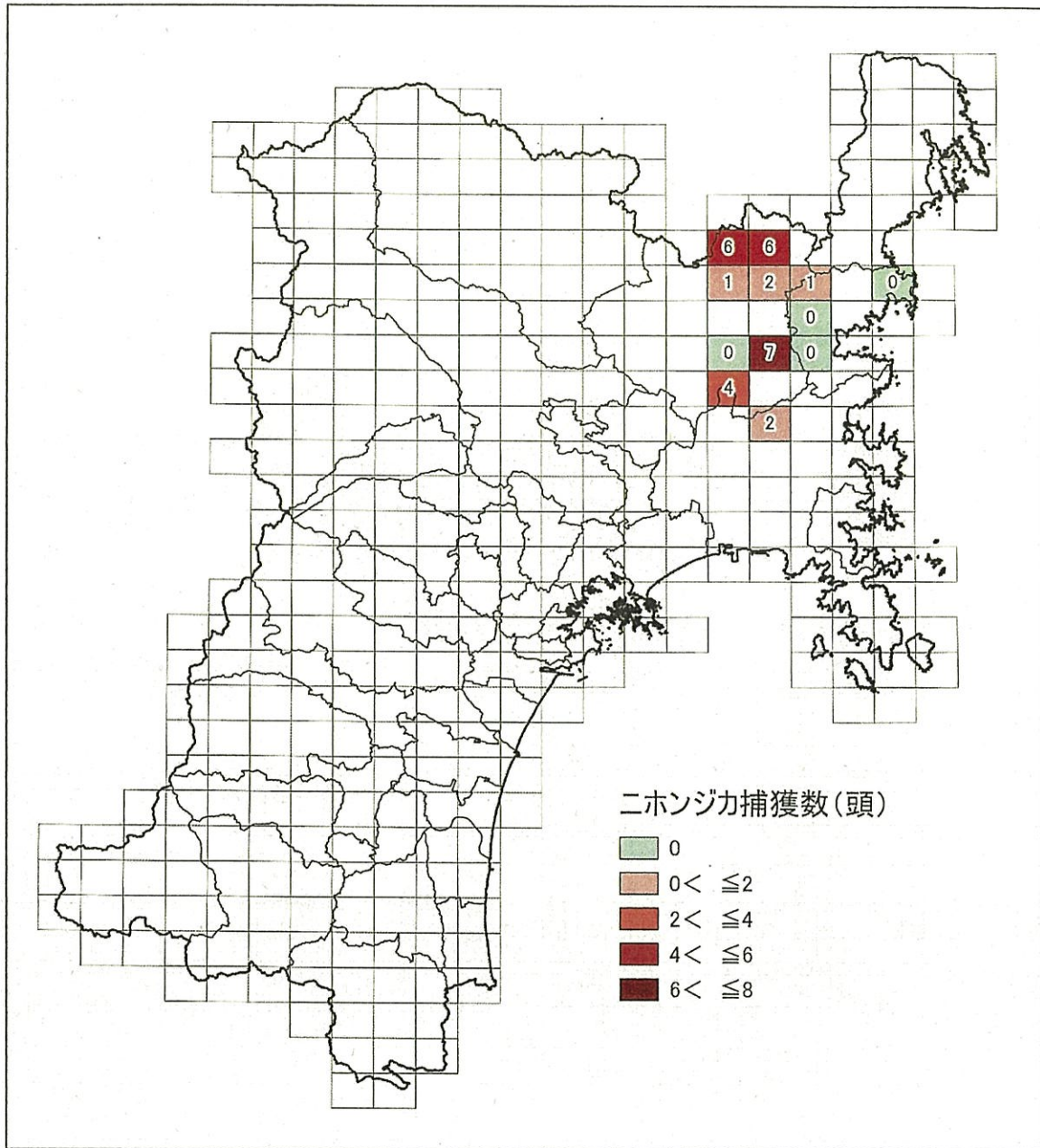
捕獲手法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙撃	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により捕獲等する猟法。
車両を用いたモバイルカリング	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器により捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後において銃器を使用した鳥獣の捕獲等。

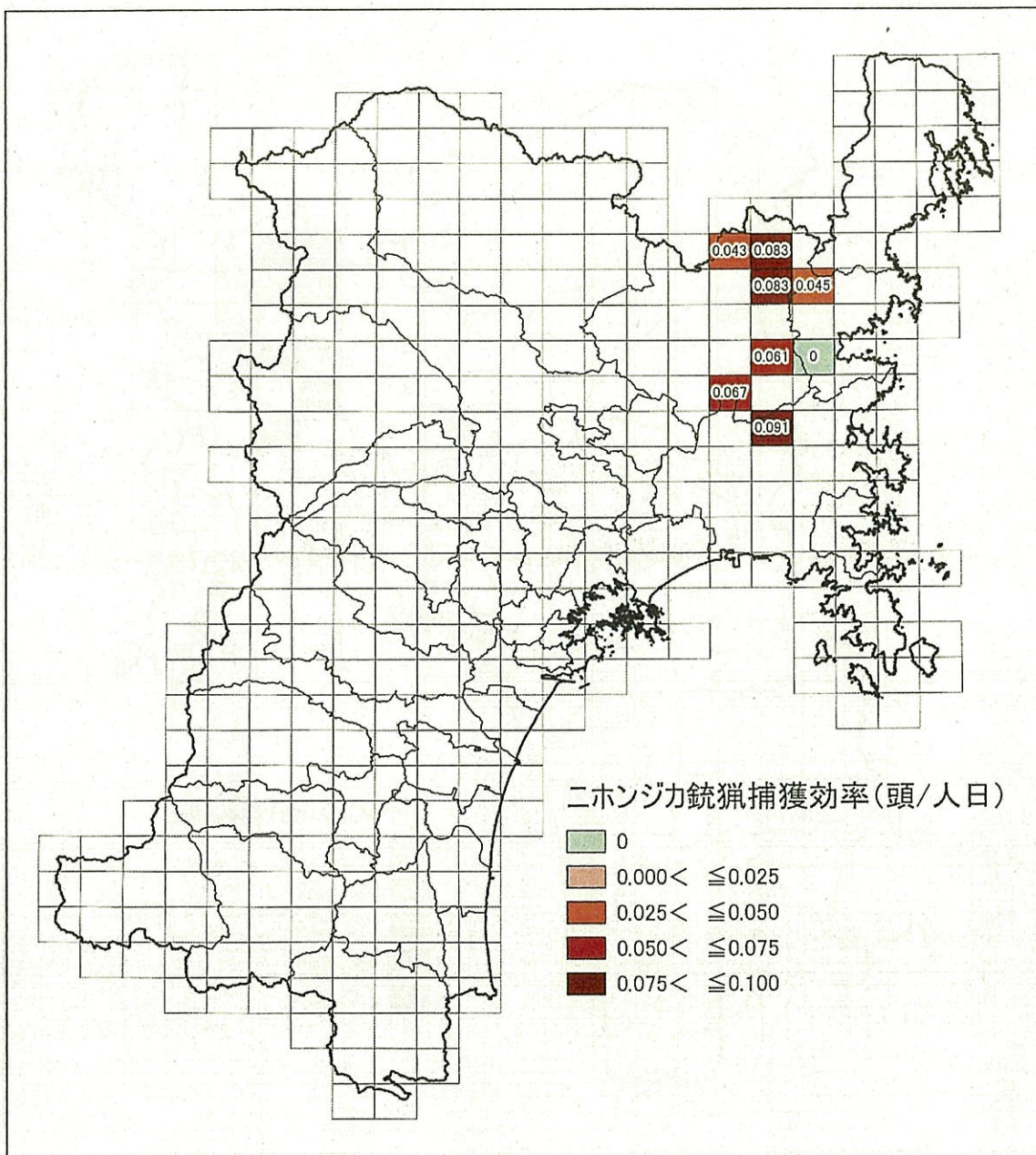
实施区域位置图



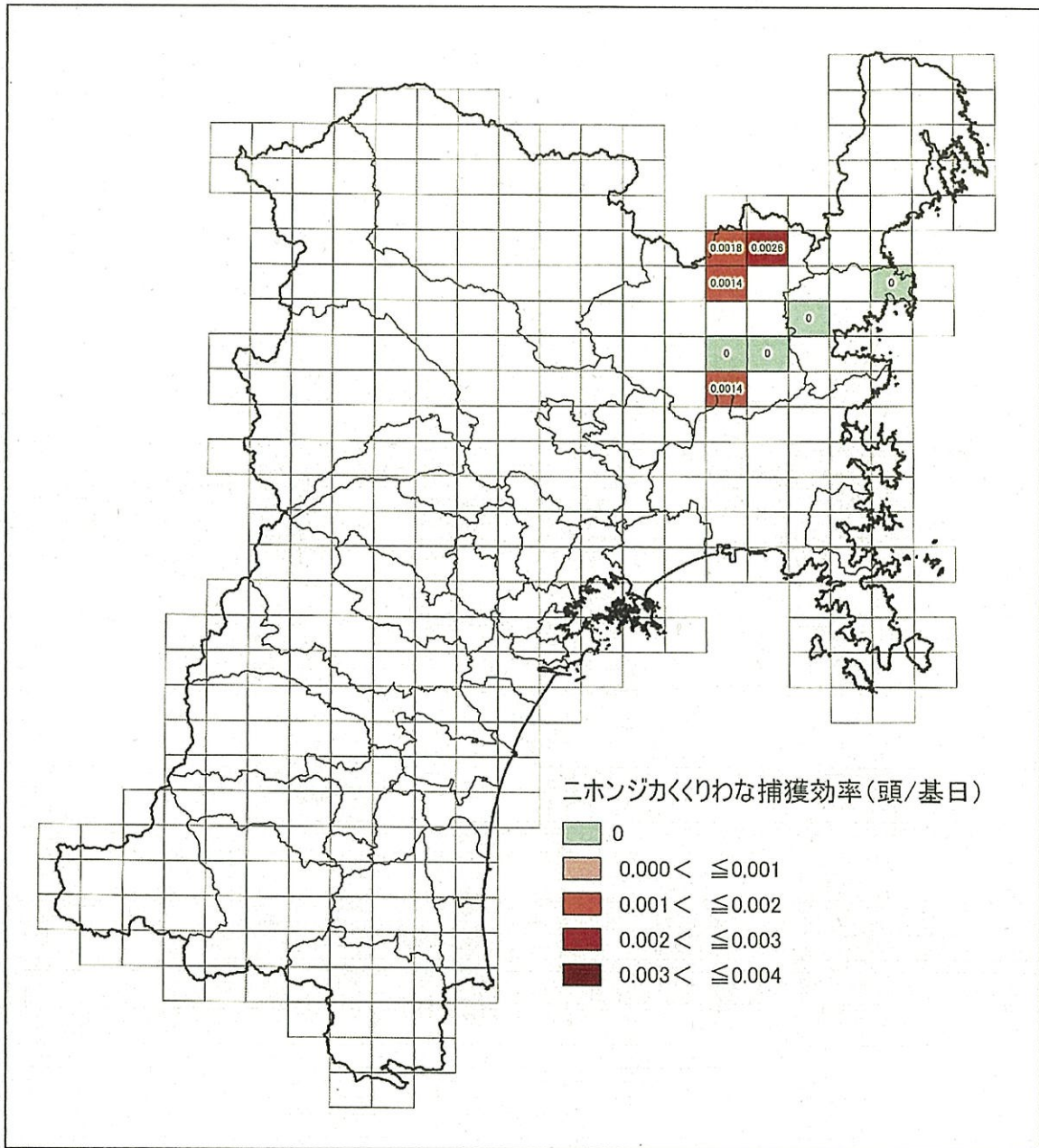
平成29年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）捕獲位置図



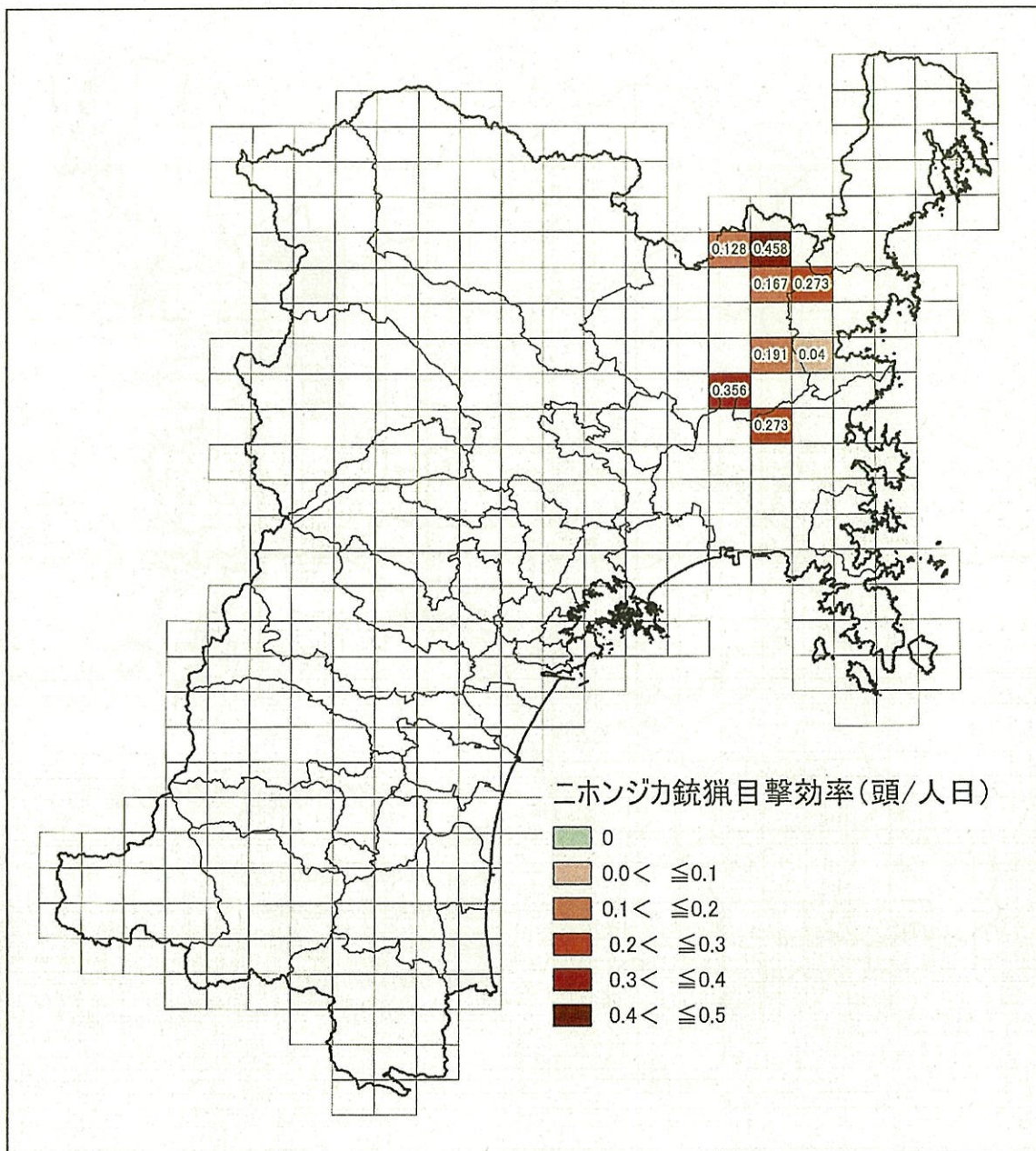
平成29年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）CPUE（銃）位置図



平成29年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）CPUE（わな）位置図



平成29年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）SPUE 位置図





宮城県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画（ニホンジカ）  
 （平成30年9月3日から平成31年3月15日まで）

## 1 背景及び目的

ニホンジカは古くから牡鹿半島と金華山に生息しているが、近年、生息域の拡大と生息密度の増加が確認されている。それに伴い、農林業被害の発生、車両衝突事故の発生等人とのあつれきが増大している。また、強い採食圧により、森林が持つ公益的機能の低下や生物多様性の低下が懸念される。

これまで狩猟や有害捕獲による積極的な捕獲を行ってきたが、依然として農林業被害は継続的に発生している。また、奥羽山脈における目撃情報も数多く寄せられていることから、今後、人とのあつれきや森林生態系への影響がさらに増大する懸念がある。

県では地域に応じた適正な生息密度に誘導するため、平成29年3月に「第二期宮城県ニホンジカ管理計画」を策定し、生息密度を原住区域及び拡大区域Aは10頭/k㎡以下、拡大区域Bは3～5頭/k㎡以下、侵出抑制区域は1～2頭/k㎡以下及び警戒区域は1頭/k㎡以下を管理目標とした。

この目標を達成するために、当面の年間の捕獲目標は、1,920頭以上（牡鹿半島及びその周辺部について1,700頭以上、気仙沼地域については220頭以上）とするが、牡鹿半島周辺部や気仙沼地域をはじめ県内各地で目撃や生息が確認されており、更なる捕獲圧の強化が必要であるため、市町村による有害鳥獣捕獲事業に加え、県が実施主体となる指定管理鳥獣捕獲等事業を実施することにより、目標達成に向け取り組んでいく。本事業では、ニホンジカの生息密度の減少および生息域の縮小又は拡大防止を目的に捕獲を行うこととする。

（注）第二種特定鳥獣管理計画の目標を踏まえ、当該都道府県内における指定管理鳥獣の生息状況（生息数、生息密度、分布、個体数推定、将来予測等）及び被害状況（農林水産業、生態系、生活環境等）を勘案して、指定管理鳥獣捕獲等事業によって個体群管理のための捕獲等を強化する必要性があることを簡潔に記載する。

## 2 対象鳥獣の種類

ニホンジカ (*Cervus nippon*)

## 3 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施期間

実施区域名	実施期間
石巻・牡鹿半島区域	平成30年9月3日～平成31年3月15日 (うち、捕獲作業を行う期間)
気仙沼区域	平成30年11月1日～平成31年2月28日（4ヶ月間程度）

（注）原則として1年以内とし、年度をまたいでも構わない。

4 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施区域（国指定鳥獣保護区を除く）

実施区域名	住所等	選定理由	他法令等
石巻・牡鹿半島区域	石巻市及び女川町	<p>石巻区域は、農林業被害が増加しているが生息密度を減少させるまでの捕獲が実施できていない地域である。また、牡鹿半島区域は継続的に捕獲を実施している地域だが、現状の捕獲圧では目標とする生息密度まで減らすことができない。</p> <p>そのため本事業において捕獲を実施し、捕獲数を上乘せする必要がある。</p>	鳥獣保護区、三陸復興国立公園、硯上山万石浦県立自然公園、国有林、鳥獣被害防止計画対象地域、有害捕獲事業実施区域
気仙沼区域	気仙沼市、登米市及び南三陸町	<p>気仙沼市は、岩手県境（五葉山地域）から生息域が拡大しており、現状捕獲が追い付いていない地域である。特に北部を中心に農林業被害が発生しているため、捕獲を実施する必要がある。</p> <p>登米市及び南三陸町は、現在は比較的生息密度が低いが、岩手県境と牡鹿半島周辺からの南北両方からシカの流入がある地域で今後急激に生息数が増加する恐れがあるため、捕獲を実施する必要がある。</p>	鳥獣保護区、三陸復興国立公園、県立自然公園気仙沼、国有林、鳥獣被害防止計画対象地域、有害捕獲事業実施区域

- (注) 1 実施区域欄には、実施区域の名称を記載する。
- 2 住所等欄には、市町村名及び地名を可能な限り詳細に記載する。
- 3 選定理由欄には、実施区域の地形、被害状況、既存の捕獲等の実施状況等を踏まえ、当該地域を選定した理由を記載する。
- 4 他法令等欄には、国・都道府県指定鳥獣保護区、国立・国定公園、国有林、鳥獣被害防止特措法に定める被害防止計画の対象地域、国や市町村による捕獲事業の実施区域等、事前の調整や協議等が必要な地域と重複する場合においては、その名称を記載する。
- 5 実施区域の全体を示す地形図等の図面を添付すること。

5 指定管理鳥獣捕獲等事業の目標

実施区域名	指定管理鳥獣捕獲等事業の目標
石巻・牡鹿半島区域	350頭程度
気仙沼区域	250頭程度
合計	600頭程度

(注) 第二種特定鳥獣管理計画の管理の目標を踏まえ、指定管理鳥獣捕獲等事業の目標として、捕獲数等の具体的な数値を記載すること。

6 指定管理鳥獣捕獲等事業の内容

(1) 捕獲等の方法

① 使用する猟法と規模

実施区域	使用する猟法	捕獲等の規模
石巻・牡鹿半島区域	銃猟(巻狩り等を想定(散弾銃及びライフル銃使用))及びわな猟(くくりわな等を想定)	受託者と調整の上決定する。 (巻狩り400人日程度、くくりわな300台程度を想定)
気仙沼区域		

(注) 1 指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画の作成段階で記載可能な範囲で簡潔に記載する。なお、受託者との調整の上で決定する場合においては、現時点で記載可能な事項や想定する内容を記載するにとどめるものとする。

2 使用する猟法は、銃猟(誘引捕獲、忍び猟、巻狩り等)、わな猟(くくりわな、箱わな、囲いわな等)、網猟等の別について記載する。なお、銃刀法第5条の2第4項第1号に規定する「事業に対する被害を防止するためライフル銃による獣類の捕獲を必要とする者」として、認定鳥獣捕獲等事業者にライフル銃を所持させ、ライフル銃を用いた指定管理鳥獣捕獲等事業を委託し、実施させる必要がある場合は、ライフル銃の使用について記載すること。

3 捕獲等の規模は、日数、人数、人工数、回数、わなの設置数等により目安を記載する。

②作業手順

<p>指定管理鳥獣捕獲等事業の実施にあたっては、以下の手順で進めるものとする。</p> <p>ア 関係者等との調整 関係市町村、関係者等(土地所有者、地域住民、狩猟者団体等)との調整を行い、合意形成を図る。</p> <p>イ 捕獲等の実施 本計画に基づき、認定鳥獣捕獲等事業者等に捕獲業務を委託し捕獲を実施する。</p> <p>ウ 安全管理 受託者は、捕獲従事者への安全教育・訓練を行い、安全管理体制を構築する。事前に地域住民等に周知し、捕獲の際は、監視員を配置するなど事故等の防止を図る。</p>
---

エ 捕獲した個体の回収・処分方法

捕獲した個体は埋設するか、搬出して適切に処分する。

オ 錯誤捕獲の場合の対応

ニホンジカ以外の獣が捕獲された場合は、原則放獣とする。

カ 捕獲情報の収集及び評価

受託者から捕獲数、場所、性別、捕獲個体サイズ、捕獲作業量等の情報を収集し、事業評価を行い、必要に応じて評価を踏まえた実施計画の見直しを行う。

(注) 事前調査の実施、関係者との調整、捕獲等の実施、安全管理、捕獲等をした個体の回収・処分方法（廃棄物としての適切な処理方法及び食肉等としての利活用をする予定がある場合はその旨）、錯誤捕獲への対応方針（わな猟・網猟の場合）、捕獲情報の収集、評価等、作業手順について、想定される内容を記載する。

(2) 捕獲等をした個体の放置に関する事項（実施する場合に限る。）

実施しない。

(3) 夜間銃猟に関する事項（実施する場合に限る。）

実施しない。

## 7 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施体制

### 【実施主体】

宮城県

### 【実施方法】

委託

### 【委託の範囲】

指定管理鳥獣の捕獲

### 【想定される委託先】

認定鳥獣捕獲等事業者等、鳥獣の捕獲等に必要な安全管理体制や技能及び知識を有し、適切かつ効果的に捕獲等事業を実施することが見込まれる者とする。

(注) 事業の実施主体として、都道府県名又は国の機関名を記載する。さらに、指定管理鳥獣捕獲等事業を直営で行うか委託するかを記載し、委託する場合は、委託の範囲と、想定される委託先（認定鳥獣捕獲等事業者への委託を想定等）があれば記載する。結果の把握及び評価並びに計画の改善を実施し得る体制を整備する場合や、大学・研究機関及び鳥獣の研究者等の専門家との連携をする場合はその旨を記載する。

## 8 住民の安全を確保し、又は指定区域の静穏を保持するために必要な事項

### (1) 住民の安全の確保のために必要な事項

- ・ 地域住民や関係者に対し、事業内容について十分な周知を図る。
- ・ わな本体及び周辺の見やすい場所に標識、注意看板の掲示を行う。

(注) 住民の安全の確保のために必要な事項として、想定する事項を記載する。

### (2) 指定区域の静穏の保持に必要な事項

- ・ 墓地や社寺境内など人の出入りの多い場所には、わなの設置を控える。
- ・ 止めさして銃器を使用する際は、発砲回数を最小限にし、静穏の保持に努める。

## 9 その他指定管理鳥獣捕獲等事業を実施するために必要な事項

### (1) 事業において遵守しなければならない事項

- ・ 連絡用無線機は適切な機器を選定するとともに、使用に当たっては電波法令を遵守し、適切な使用に努めることとする。
- ・ ツキノワグマの錯誤捕獲を未然防止するため、「輪の直径が12センチメートルを超えるくくりわな」及び「締め付け防止金具がないくくりわな」は使用しないこと。
- ・ くくりわなを設置した付近でツキノワグマの生息が確認された場合は、くくりわなを移動する、あるいは設置を中止する。

(2) 事業において配慮すべき事項

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に加え、森林法、自然公園法、また事業管理に当たって関連する銃砲刀剣類所持等取締法、火薬類取締法、電波法等の法令を遵守する。

(3) 地域社会への配慮

事業の効果、評価を関係者等に広く周知するとともに、当事業を通じて、鳥獣管理の必要性について普及啓発する。

实施区域位置图

